

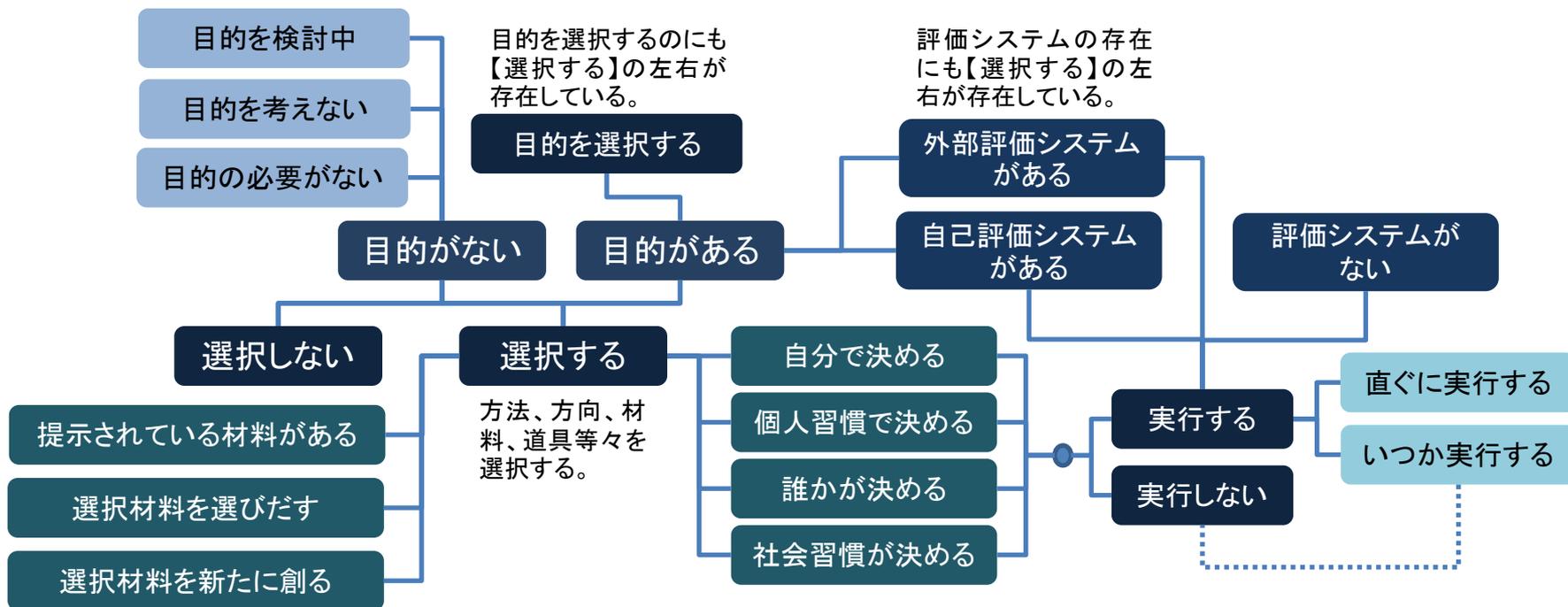
# 選択からの行動姿勢の確認

人は、休むことなく、常に判断をしている。何らかの基準により、何らかの範囲から選択をしている。一日の行動、一年の行動はすべて「選択」と「意思決定」で進んでいく。

その背景とプロセスを追うと、人材の姿勢が浮かび上がる。

一人の人材を取り出し、下記の流れの中で、「選択」「決定」「行動」を追う。優秀な人材群を選び、テーマ別に「選択」「決定」「行動」を描きだす。組織人全体の共通した部分を取りだす。組織が求めている人材が分かるはずである。

例えば、「選択材料を選びだし」「習慣で決めている」とすれば、維持型であり、収束していく組織になる。「選択材料を選び」「不足材料を創り出し」「自らの意思で決め」「すぐ実行」して、自己評価と外部評価を比較しているとすれば、創造的、挑戦的組織になる。自組織理論(理想)と実際を比較してみる。



如何なる選択にしても、選択している「意識」が大切であり、選択の根拠への「意識」が重要になる。